

＼本市出身の洋画家・川北英司氏の作品の新収蔵を記念して企画展を開催(5/27～6/25)／  
「松田正平と川北英司の作品展～洲之内徹にみいだされた二人の画家～」

龍ヶ崎市教育委員会では、「松田正平と川北英司の作品展～洲之内徹にみいだされた二人の画家」を、令和5年5月27日(土)から6月25日(日)まで龍ヶ崎市歴史民俗資料館で開催します。入場は無料です。

昨年9月、郷土作家の川北英司の**作品9点**(**油彩画8点・素描画1点**)が本市教育委員会に寄贈されました。本展はこれを記念し、寄贈作品にご子息からの借用作品を加えて展示し

ます。あわせて川北がコレクションしていた日本芸術大賞(1984年)受賞者・松田正平の**油彩画2点・素描画5点**も借用して展示します。



▲川北英司『自画像』



▲松田正平『周防灘Ⅲ』

川北は、東京・銀座にあった「現代画廊」で、1982年から画廊主であった洲之内徹(すのうちとおる)が亡くなる1986年まで個展を開いています。洲之内に川北を紹介したのが、先に同画廊で個展を開いていた松田であったというエピソードがあります。洲之内は、小説家・美術評論家として活躍し、雑誌『芸術新潮』『気まぐれ美術館』で脚光を浴びていた人物です。

なお、今回展示する松田の作品のうち5点(油彩画2点・素描画3点)は、2018年11月6日に放送されたテレビ東京「開運！なんでも鑑定団」の中では、高額の評価を受けたものです。

ぜひ、この機会に洲之内にみいだされた二人の作品をご覧くださいたく、報道機関の皆さまにおかれましては、周知にご協力賜りますよう、お願いいたします。

■川北英司(1912～1989年)…龍ヶ崎市生まれ。川端画学校を経て、帝国美術学校(現：武蔵野美大)に在学中より宮坂勝に師事。1936年(24歳)、国画会展で初入選を果たす。20代後半より病氣療養生活に入り、龍ヶ崎へ帰郷。50代後半から作画活動を再開した。

■松田正平(1913～2004年)…島根県生まれ。宇部の松田家の養子となる。川端画学校で絵画を学ぶ。1937年、東京美術学校(現：東京藝術大学)西洋画科を卒業。在学中、帝展に入選。1941年、国画会に初入選し、1951年同会会員となる。同年、画業に専念するために上京。1984年、日本芸術大賞を受賞。

■日 時	令和5年5月27日(土)～6月25日(日) 午前9時から午後5時まで ※月曜日休館
■場 所	龍ヶ崎市歴史民俗資料館 企画展示室 (所在地：龍ヶ崎市馴馬町2488番地)
■主 催	龍ヶ崎市教育委員会
■資 料	チラシ「松田正平と川北英司の作品展～洲之内徹にみいだされた二人の画家～」

担当課	龍ヶ崎市教育委員会事務局 文化・生涯学習課 文化学習推進グループ 担当者：油原(ゆはら) 連絡先：龍ヶ崎市歴史民俗資料館 0297-64-6227(直通)
-----	---